

福井が好きだから「伝えたい・残したい」、福井の宝もの。

# 「港」のアイデア ここにもあつた

【特集】三国の街は「港」で語る

No.23  
2016

組  
SOCIAL PAPER KUMIBITO

# 海路と陸路を結んだ 美しき鉄道遺産

古くから九頭竜川の河川舟運や北前船交易で栄えた三国港。かつての港の繁栄は現在の街の伝統や文化、景観に深く息づいている。えちぜん鉄道三国線が三国港駅までのところにかかる「眼鏡橋」もその一つで、1913年（大正2年）に、旧国鉄三国線が三国港駅まで開通した際に建設された。この煉瓦積みの斜めアーチ橋には「ねじりまんぼ」と呼ばれる独特的な技法が使われている。これは、上の道路と下を走る線路が直角以外で交わる場合、坑口付近での橋台の強度を確保する方法のひとつ。この技法で作られた「眼鏡橋」は、ねじったようすに斜めに積まれた煉瓦が美しい曲線を描き、珍しい鋸歯状仕上げの端面が、なんともレトロなシルエットを作り出す。ねじりまんぼの構造物は全国でも30箇所ほどしか残されておらず、福井県内ではここでしか見られない。

国鉄の線路は休止、無人化などの糺余曲折を経て、現在は“えちぜん鉄”を走らせる。道路を残しながら鉄道の開通を実現した眼鏡橋は、海路と陸路をつなぎ重要な鉄道遺産だ。とはいっても、特筆すべきは橋上の道路。今もなお、れっきとした住民の生活道路で、明治以前は九頭竜川に沿う主要な幹線道路。物資を運ぶ荷車や商人が行き交う街並みには、倉庫や米蔵、船小屋が立ち並び、眼下には船着き場や造船所がひしめきあつっていた。

「眼鏡橋」の由来は船乗りが使用的した遠眼鏡とされている。かつての港民たちが船の往来や海の様子を見に行つたように、橋の上に立ち遠くを見渡すと、海風が運ぶ港のにぎわい、愛らしい海鳥の声、そして、雄大な青い海を一望でき、かつてより三国の街が港と共にあらざることを窺い知ることができる。



## 眼鏡橋

国の登録有形文化財

雄島

越前松島

東尋坊

# 三国湊のすがた 眼鏡橋から覗く



## 三国港突堤

オランダ人技師 G.A. エッセルによって設計された日本初の西洋式捨石防波堤は「明治三大築港」の一つで、防波・防風と航路への土砂堆積防止を目的として整備された。築後 100 年以上経った今でも、現役で港を守るその姿は、まさに「三国港のシンボル」といえる。



## みくに龍翔館

突堤と同じくエッセルによってデザインされた龍翔小学校。この木造 5 階建て八角形の洋館を模して作られたみくに龍翔館は、日本海を一望できる高台に建ち、三国湊の歴史・文化を展示物で紹介する。



## 鉄道資料館(三国港駅)

国鉄時代の繁栄を匂わせる極端に長いホーム内に併設された鉄道資料館では、三国港駅の歴史のほか、三国の街や港の歴史を紹介。また、ホーム端には「眼鏡橋」が建設された大正 2 年の記念碑が残されている。

取材……宮本隆行  
撮影……高橋正勝  
制作……牧田有加  
組人についてのお問い合わせ・バックナンバーは  
発行元 大一印刷株式会社

〒910-2142 福井県福井市前波町17-6-1  
TEL.0776-41-3741 FAX.0776-41-2442  
<http://bigone-p.com/kumibito/>  
企画制作・編集  
コミュニティサポート5〇プロジェクト



Find us on:  
facebook.

2016.09